

# 小諸人と話そう

その巻



塩川 秀忠 さん

(株)大栄製作所代表取締役社長。  
小諸商工会議所副会頭として小諸を盛り上げる企画を行っている。ほかに、こもろ観光局副理事長、小諸市代表教育委員 など



緊急事態の中で知った  
小諸の「食の魅力」

「小諸って、歴史・文化や豊かな自然があるのに、あんまり活かされていないよね」。市外の方から言われた言葉です。「どうやったら盛り上げられるだろうかと、ずっと考えています。今回、新型コロナウイルス感染症によって社会が大きな影響を受けるなかで、小諸は観光や自然だけでなく、「食」においても魅力があることに気づかされました。商工会議所がクーポン付チラシを発行する際、50を超える飲食店が参加したんです!! テイクアウトできるお店がこんなに沢山あることは、間違いなく小諸の強みですね。

◎「食の魅力」で小諸は  
どんなことができる?

テイクアウトが推奨されるなかで、実際に飲食店に足を運ぶようにしていました。飲食店をひとつひとつ回り、毎日紹介しています。テイクアウトを70食以上食べました(笑)。

観光に関わるようになって分かったのですが、歴史や自然だけでピーターを作るのは本当に難しい。例えば、三の門。それ自体は素晴らしいですが、観光客はそれだけを見に、2回、3回とは来ないですね。

そこで、食が大切になってきます。「駅前のおその蕎麦屋に行きたい」「あの店のスパゲティをまた食べたい」、そういう気持ちと合わせ、再び来てくれる



相生坂公園でスタートさせたフードステージは、まちなかに賑わいを生んでいる

んです。「食」を盛り上げることで、観光や様々なものが盛り上がり上がってほしいなと思います。「食」は人間の基本ですよ。

◎相生坂公園でのFOODSTAGE。  
きっかけは何だった?

フードステージ(左頁参照)のきっかけとなる最初の企画は「アンブレラスカイこもろ」でした。モノトーンな冬の小諸に新たな魅力をつくらうと思いい、相生坂公園(相生町市役所隣)にカラフルな雨傘を並べました。

当初は「何で冬に傘なの?」という批判的な声もありましたが、結果として市内の皆さんはもちろん、市外県外から遊びに来てくれた方もいました。だんだんと人が集まってくれるようになったので、飲食店にお菓子やお弁当を販売してもらう催しをはじめました。

そうこうしているうちに、新型コロナウイルスによる影響が大きくなり、飲食店は店舗での営業が難しくなってきました。そこで、週2回、水曜日と金曜日に複数店舗が集まり、飲食のテイクアウトを販売できる場ができました。これがフードステージで、今に続きます。

7月21日からは、相生坂公園



「小諸センゴク甲冑隊」としても活躍中の塩川さん

で市内の飲食店さん達が集まり、「お弁当市場」を開催するようです。会議所の皆さんのチカラで新たな拠点のきっかけづくりができたこと、とても嬉しく思います。

◎小諸人(読んでいるあなた)と一緒にやりたいことは?

小諸の飲食店の皆さんは、まだまだ元気です。「商都・小諸、商人の血が流れているんだな」と思われます。それでも今は支援が必要な、厳しい時期。市からの支援だけでなく、皆さんの応援も必要です。

最近、「小諸はすごいんだね」と言われるようになってきました。小諸と一緒に盛り上げましょう!